

『エコプロダクツ 2007』

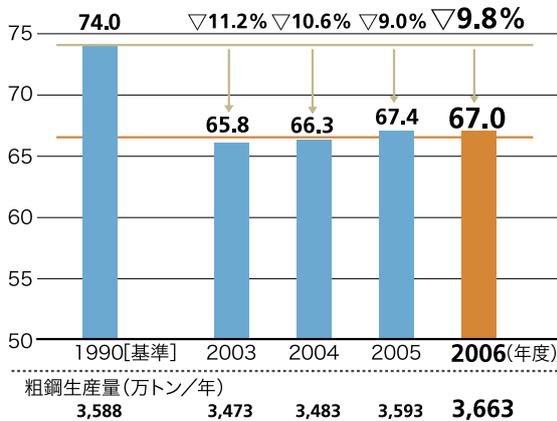
2007年12月13～15日の3日間、東京ビッグサイトで『エコプロダクツ2007』が開催された。9回目を迎えた同展示会は、エコプロダクツの最新情報の提供と、企業、自治体、大学、NGOなどのさまざまな活動紹介や交流が行われる一大環境イベントで、3日間で合計16万5,000名の来場者があった。新日鉄は、『環境報告書』と並ぶコミュニケーションツールとし



新日鉄のエコプロセス

世界最高水準のエネルギー効率での製鉄プロセスと、その中でエネルギーと資源を循環させる取り組みを紹介した。

新日鉄グループ6社のCO₂排出量の推移 (単位:百万トン/年)



第一次石油危機以降1990年までに、工程の連続化、排熱の回収などにより約20%の省エネルギーを達成。2006年度は、1990年度比で9.8%の削減。



新日鉄のエコソリューション

新日鉄ではこれまで蓄積してきた世界最高レベルのエコプロセスとエコプロダクツの技術を活かし、さまざまな分野の省エネルギー・環境問題を解決する取り組みを行っている。

展示会では、製鉄プロセスを用いた容器包装プラスチック・廃タイヤのリサイクルやCDQ(コークス乾式消火設備)、グループ各社の取り組みなどを紹介した。

また鉄鋼スラグを利用した磯焼け改善の取り組み「海の森づくり」を映像を交えて紹介した。



海の環境問題に詳しい牡蠣・帆立養殖業者で京都大学教授の畠山重篤氏が訪れた



鉄鋼スラグを利用した磯焼け改善の取り組み「海の森づくり」



廃タイヤリサイクル設備(広畑製鉄所)



4年前から総合学習の一環で環境学習(2007年は新日鉄社員が講師として参加)を行っている神奈川県立海老名高等学校の生徒も見学



福田首相が訪れ、執行役員の青木宏道による自動車用ハイテンや容器包装プラスチック・廃タイヤリサイクル、「海の森づくり」などの説明に熱心に聞き入っていた。

新日鉄の展示に大きな反響

これまで8回継続して出展してきたが、今回は、新日鉄グループ全体の環境貢献を示す総合的な展示を実施。展示スペースも従来の3倍規模となった。“先進のその先へ、新日鉄”をコンセプトに、地球環境問題に貢献する新日鉄の取り組みを「エコプロセス」「エコプロダクツ」「エコソリューション」の3つのカテゴリーに分けて紹介し、訪れた多くの来場者にアピールした。



新日鉄のエコプロダクツ

新日鉄では、世界最高レベルの技術開発力により、高機能鋼材を開発・提供して、環境負荷削減・省エネルギーに貢献しており、さまざまなエコプロダクツを展示した。

① 船舶用高強度厚板

強度(降伏応力)と粘り(靱性)という相反する特性を両立させた厚板の開発により、船舶の安全性、軽量化や燃費向上に寄与。



高強度厚板を使用したコンテナ船
© エム・オー・エル・エフィジェンシー

② 自動車用高強度鋼板(ハイテン)

強さと軟らかさを併せ持つ鋼板で、自動車の軽量化と安全性を両立。加工性、溶接性にも優れる。



ハイテン

③ 軽量燃料タンク「エココート®-S」

環境負荷物質の鉛やクロメート(クロム酸塩)を使わず、すずと亜鉛をめっきした鋼板。自動車燃料タンクの軽量化と耐久性の飛躍的な向上を実現。ガソリン燃料よりも腐食しやすいバイオ燃料にも対応可能。



エココート®-Sを使用した燃料タンク
写真提供: ユニプレス(株)

④ 電磁鋼板

磁気・電気のエネルギー変換効率を高めた高機能材料。ハイブリッドカーなど、あらゆるモーターの鉄心や発電所・変電所の変圧器の鉄心に使用され、省エネルギーに貢献。

⑤ 重荷重輸送鉄道用レール

鋼材の耐摩耗性・耐内部疲労損傷性を向上させ、新幹線の約3~4倍の荷重を支える長寿命レールを実現。「第2回ものづくり日本大賞」経済産業大臣賞を受賞。

⑥ ニツテツスーパーフレーム®工法

独自開発の工法により、気密・断熱性に優れ、冷暖房での省エネルギーを実現するスチールハウス。

⑦ 制振鋼板「バイブレス®」

2枚の鋼板の間に樹脂を挟み、騒音の発生源での振動を抑える効果のある鋼板。



鉄鋼業の地球温暖化防止への貢献を、当社技術総括部マネジャーの米澤公敏が紹介した。

当社の環境に対する取り組みを より良くご理解いただく

環境部長 山田 健司



今回は出展の内容も規模も充実させ、当社の環境に対する取り組み全体を俯瞰できる総合展示を行いました。営業・技術・研究部門など会社の総力をあげて展示の検討を行い、最終日には、思いがけず福田首相がご来訪されるなど、

大盛況の中で終えることができました。これもひとえに、当社の技術先進性や幅広い事業活動が高く評価された結果だと思っています。